

第20回 花と緑のデイサービス運営推進会議資料

開催日 令和 8 年 3 月 24 日 (火曜日)  
時間 午後2時から2時30分  
場所 花と緑のデイサービス(地域密着型通所介護)食堂  
作成者 管理者 大原 綾



運営推進会議出席者一覧

氏名	構成区分	役職・所属先	出欠
富岡様	利用者		出席
太田様	御家族		出席
岩坂様	御家族		出席
高妻様	御家族		出席
関屋様	御家族		出席
平野様	御家族		欠席
花田様	御家族		欠席
壱岐様	民生委員		欠席
齋藤様	新富町役場介護保険係	主事	出席
黒木様	地域包括支援センター	主事	出席
新名様	介護支援専門員	居宅介護支援事業所羽廣	出席
谷口様	介護支援専門員	ケアプランステーションルピナス	出席
永友様	介護支援専門員	居宅介護支援事業所希望の里	欠席
鈴木様	看護師	訪問看護ステーションラプラス	出席
丸野様	管理者	訪問看護ステーションラプラス	出席
大原	事業所管理者		

## 議事次第

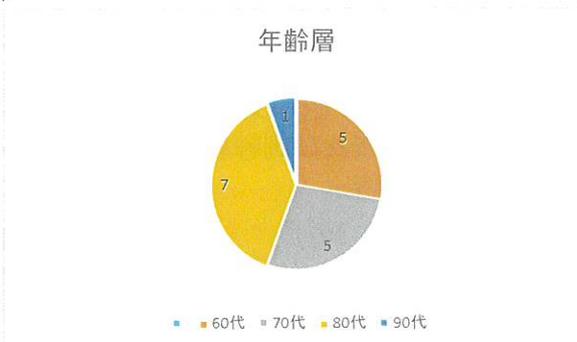
- 1)施設運営状況報告
- 2)利用者利用状況、個別支援の紹介
- 3)感染症対策研修及び訓練報告
- 4)アクシデント報告
- 5)内部・外部研修
- 6)季節の行事
- 7)新人職員紹介
- 8)今後の予定
- 9)質疑応答・意見交換欄

1)施設運営状況報告(2月現在)

\*ご利用者登録者数:18名 (男性9名 女性9名)

\*年齢層 (平均年齢:76.4歳)

年齢	人数
60代	5名
70代	5名
80代	7名
90代	1名



\*職員体制・配置状況

- ・管理者 1名
- ・生活相談員 1名(常勤・介護福祉士)
- ・介護職員 8名(非常勤・介護福祉士 3名・准看護師 1名)  
(実務者研修1名 初任者研修1名 )  
(常勤・特定技能1号2名)
- ・機能訓練指導員 1名(非常勤、柔道整復師)

※基準を満たす体制で配置しています。

\*時間別利用状況(2月の内訳)

時間帯	月	火	水	木	金	土	合計
午前 (9:30~12:30)	3名	1名	5名	0名	2名	0名	12名
午後 (13:30~16:30)	6名	4名	0名	3名	4名	4名	21名
1日 (9:30~16:30)	3名	3名	1名	3名	3名	3名	15名

\*時間別利用者状況棒グラフ(2月分)

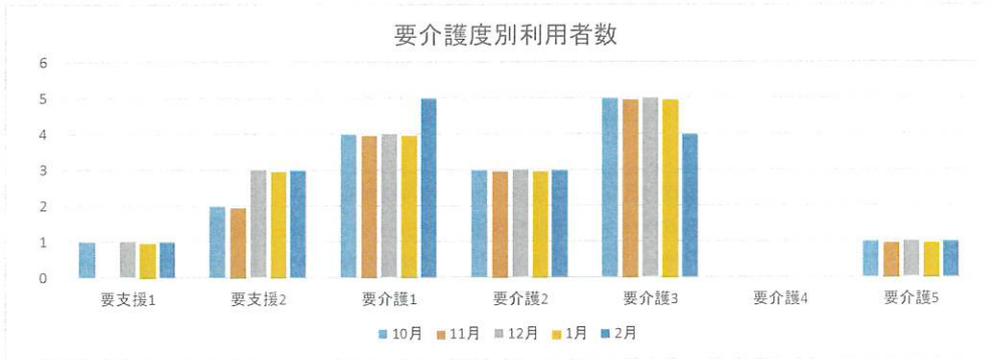
午前 9:30~12:30	10名						
	9名						
	8名						
	7名						
	6名	■		■			
	5名	■		■		■	
	4名	■	■	■		■	
	3名	■	■	■	■	■	■
	2名	■		■	■	■	■
	1名	■	■	■	■	■	■
時間帯	人数	月	火	水	木	金	土
午後 13:30~16:30	1名	■	■	■	■	■	■
	2名	■			■		
	3名	■			■		
	4名	■	■		■	■	■
	5名	■	■		■	■	■
	6名	■	■		■	■	■
	7名	■	■			■	■
	8名	■					
	9名	■					
	10名						

※定員午前10名、午後10名

■ 半日デイ ■ 1日デイ

\* 要介護度別利用者数

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
10月	1	2	4	3	5	0	1	16
11月	0	2	4	3	5	0	1	15
12月	1	3	4	3	5	0	1	17
1月	1	3	4	3	5	0	1	17
2月	1	3	5	3	4	0	1	17



\* 登録者数

月	登録者数	新規	退所	実利用者数	延べ利用者数	新規理由	退所理由
2025年10月	17	0	0	16	201		
2025年11月	17	0	0	15	165		
2025年12月	17	0	0	17	177		
2026年1月	17	0	0	17	158		
2026年2月	17	1	2	16	178	ケアマネ紹介	入院



2)利用者の利用状況、支援内容（10月から2月までの状況）

利用者	年齢	介護度	課題	支援内容
A様 男性	60代	要介護3	・利用回数が減っている。 ・嚥下機能が低下している。	在宅生活が継続できるよう身体状況に応じた運動の支援。
B様 男性	60代	要支援2	頸椎神経損傷があり痺れ、傷みが強く、移動に不自由さがある。	痛みやしびれの状況に合わせて歩行訓練や機能訓練の実施。
C様 女性	60代	要介護1	体調不良により休まれることがあったり運動する機会が減っている。	創作活動等を通じて他者との交流や身体状況に応じた運動の支援。
D様 女性	80代	要介護1	足の痛みがあり、動くことがつらくなっている。また休まれることがあり外出の機会が減少している。	他者との交流を図り、身体状況に応じた運動の実施や楽しみある活動の支援。
E様 男性	70代	要介護2	頭痛や腰痛、浮腫みが強く、日中眠気が強い。ご自宅でソファから何度か滑り落ちられそこから立ち上ることが大変だったと家族から相談あり。日常動作に支障をきたしている。	右上下肢麻痺や浮腫みが強く運動意欲低下あり。意欲につながる声かけを行い身体状況に応じた運動の支援。
F様 女性	90代	要介護1	立ち上がりや歩行時に膝の痛みや違和感を感じられ不安定さがみられる。	日常生活動作が維持できるように体操や室内歩行、個別運動の実施。
G様 男性	80代	要介護5	脳梗塞後遺症にて左上下肢麻痺のため日常生活動作に見守り・介助が必要。	左上下肢麻痺、空間無視があるため、状況に応じた介助を行う。
H様 女性	80代	要介護2	軽度の認知症があり、特定の利用者との相性が合わない。	特定の利用者とするれないように仕切り等で対応する。
I様 男性	80代	要支援1	骨折による身体機能低下や認知機能低下がみられる。	利用者のペースに合わせて、ゆっくりわかりやすく声かけをする。身体状況に応じた運動の支援。
J様 女性	60代	要介護1	視力障害や体調等で歩行時のふらつきがみられ転倒の危険がある。精神面が不安定。	状態変化に応じた対応を行う。本氏の思いを傾聴し精神面の不安軽減に努めている。
K様 女性	60代	要支援1	骨折歴複数あり。左全盲と右弱視。転倒を繰り返されている。	在宅生活が続けられるよう、身体状況に応じた運動の支援。
L様 女性	70代	要介護2	退院後在宅生活を継続するために、体調面の観察や運動の継続、他者との交流が必要。	創作活動を通じて他者との交流や平行棒や器具を使った運動の支援。
N様 男性	70代	要介護2	脳梗塞の既往により左上下肢の麻痺があり日常生活動作に支援が必要。	屋内歩行訓練や平行棒、マシーントレーニングなど身体状況に応じた運動や他者との交流の支援。
M様 男性	70代	要介護3	左上下肢麻痺があり拘縮の進行認められる。立ち上がりにふらつかれる時がある。	動作時の声かけや身体状況に応じた運動の支援。
O様 男性	70代	要介護3	視力障害等があり移動は車いす。腰痛、右わき腹痛など体調が優れず、デイを休まれることが多くなっている。	ご自分でも移乗や立ち上がりに筋力低下を感じておられる。利用時は体調確認し運動の継続。
P様 女性	80代	要支援2	入退院を繰り返しておられ、2月からサービス開始される。転倒歴あり。	移動は杖歩行で付き添いを行っている。身体状況に応じた運動と他者との交流の支援。

\* 個別支援の紹介

利用者	年齢	介護度	課題			機能訓練	
E様 男性	70代	要介護2	腰痛や下肢痛、浮腫みが強く 日中眠気が強い 運動意欲の低下			<ul style="list-style-type: none"> <li>•平行棒体操(踵上げやスクワット)</li> <li>•マシーントレーニング</li> <li>•歩行訓練・立ち上がり動作</li> <li>•低周波やメドマー</li> </ul>	
	筋力テスト	測定月	体重	握力		5m速度	評価
		10月	88.8kg	右:2.5	左:15.5	16秒	
		11月	89.9kg	右:1.5	左:17.0	19秒	
		12月	91.0kg	右:2.0	左:11.0	22秒	
		1月	90.3kg	右:3.0	左:14	23秒	
2月	90.5kg	右:2.0	左:11.0	14秒			
腰痛や頭痛、右上下肢の むくみは持続。 体重増加傾向。							
G様 男性	80代	要介護5	左半身麻痺と空間無視がある ため、麻痺側の手足に怪我や 転倒のリスクが高いため注意が 必要。			<ul style="list-style-type: none"> <li>•立位動作訓練</li> <li>•チューブ運動</li> <li>•レッグプレス・ハンドグリップ</li> <li>•低周波やメドマー 他</li> </ul>	
	筋力テスト	測定月	体重	握力	レッグプレス	評価	
		10月	42.7kg	右:13.0	33	起き上がり動作や立ち上がり動作が 軽介助で行えている。 右握力が強化されている。	
		11月	43.1kg	右:12.0	33		
		12月	44.2kg	右:15.5	35		
		1月	45.65kg	右:20.0	35		
2月	46.45kg	右:17.0	29				
H様 女性	80代	要介護2	気づかないうちに2階へ 階段を上がられたことがあり 転倒、転落の危険がある。			<ul style="list-style-type: none"> <li>•平行棒体操(踵上げやスクワット等)</li> <li>•集団体操</li> <li>•プーリー・歩行訓練</li> <li>•メドマー・脳トレ 他</li> </ul>	
	筋力テスト	測定月	体重	握力		5m速度	評価
		10月	34.7kg	右:2.5	左:2.5	14秒	
		11月	35.2kg	右:2.5	左:2.5	15秒	
		12月	37.45kg	右:5.0	左:5.0	13秒	
		1月	38.65kg	右:5.0	左:4.5	13秒	
2月	39.05kg	右:5.0	左:5.0	12秒			
体重が少しずつ増加している。 歩行器歩行も安定しており、 ふらつきは少ない。プレーキ 操作の声かけは必要。職員 介助のもと階段昇降実施。							
B様 男性	60代	要支援2	寒い時は特に痛みや痺れが 強く、痛みで熟睡できない。 褥瘡が踵にできているので 悪化しないよう注意が必要			<ul style="list-style-type: none"> <li>•温熱療法</li> <li>•平行棒運動</li> <li>•マシーントレーニング</li> <li>•ペダル漕ぎ</li> <li>•歩行訓練</li> <li>•メドマー 他</li> </ul>	
	筋力テスト	測定月	体重	握力		5m速度	評価
		10月	58.25kg	右:17.0	左:×	8秒	
		11月	58.8kg	右:17.0	左:×	9秒	
		12月	59.4kg	右:20.0	左:×	9秒	
		1月	60.9kg	右:18.0	左:×	11秒	
2月	60.4kg	右:18.0	左:×	11秒			
本氏と痺れや痛みの状況に 合わせてリハビリを実施。 移動時に付き添い介助を 行う。							

### 3)感染対策研修及び訓練報告

#### 1・目的

感染症の基本的知識と感染対策の正しい方法を理解し、実践できることを目的に、研修と手指消毒の正しいやり方と個人防護具の着脱訓練を同時に行う。



#### 2・日時・場所

令和8年2月19日 午後12時15分～13時  
 デイサービス訓練室



#### 3・研修内容

「平時から実施する感染症対策の基本」、手指衛生(手指消毒・手洗い)、個人防護具の目的・着脱、「個人防護具の着脱手順」の研修、手指消毒の正しいやり方や個人防護具の着脱の訓練も同時に行う。

「平時から実践する感染症対策の基本」		
	研修内容	事業所での対応
・施設における感染対策の基本	感染源をなくす 感染経路を遮断する 免疫力を上げる	事業者では基礎疾患を有する方や感染症に対する抵抗力が弱い方が多いため特に注意。
・標準予防策の重要性	汗を除くすべての体液(血液、唾液、分泌物、嘔吐物、排泄物等)は感染源となるため、いつも感染する危険性があるものとして取り扱う。	標準予防策を常日頃から徹底することで、介護職員から利用者へ、または利用者から職員への感染を防ぐ。
・ご利用者の健康管理	発熱や咳・痰、下痢、嘔吐 発汗、呼吸が早い ・表情や活気がない	職員は利用者のいつもの違いに気づくこと 利用者また家族は発熱等の症状があるときは無理せずに休んでもらう。
・職員の健康管理	毎日出勤前に検温し、発熱や咳等体調不良時は管理者に報告する。 同居する人に感染症状がある場合は、管理者に報告し、対応を相談する。	体温等の体調管理や、マスクの着用、休憩室や施設内の会議など狭い空間では十分に換気をする。 感染症状がある場合、無理に出勤しないように休める環境を整えておく。
・環境整備	清掃と消毒	ドアノブ・リモコン・ベッド柵・手すりなどよく手が触れる場所の清掃と消毒
・換気	1～2時間おきに5～10分程度窓を開け換気を行う。	2方向に窓を開け空気の流れを作る

感染対策は、職員全員で行い、平時からの標準予防策の徹底が、感染拡大を未然に防ぐことにつながり、ご利用者だけでなく自分たちのためにも実践すべき対策である。

4)アクシデント報告

ご利用者	H様 女性 要介護2
発生日	R7年11月4日（火曜日）
発生場所	訓練室
状況	デイサービス利用中、H様は職員とテレビ鑑賞中だった。
概要及び経過	職員は3名おり一人は昼食の準備のため配膳室、一人は休憩、一人はH様とテレビ鑑賞していたが、他利用者様のトイレ介助のためH様にお声かけをしてトイレ介助を行う。トイレ介助後戻ると姿がなく慌てて探すと、1人で階段を使って2階に上がったのをホーム職員が発見し対応してくれていた。
原因	・話す利用者もいないなか、1人にしてしまった。 ・職員間の声かけができていなかった
対応策	職員間の声かけの徹底 階段昇り口に柵を設置する

ご利用者	F様 女性 要介護1
発生日	R7年11月5日（水曜日）
発生場所	訓練室
状況	F様に自転車こぎの運動を促し30秒ほど行われたあと、疲れたと言われ終了される。
概要及び経過	終了された後突然全身の震えが発生し、1分間ほど続きその後横になってもらう。意識はやや低下していたが呼吸は安定しており、血圧130/68(78)、体温36.5℃、SPO2 96%、刺激痛覚に反応があり覚醒される。「胸の中心が苦しかった。びっくりした。」と話された。その後は状況安定、バイタルもいつもとお変わりなかった。
原因	原因ははっきりわからないが運動がきつかったと思われる。
対応策	利用者の状況を把握し、情報の収集など行い対応する。

ご利用者	C様 女性 要介護1
発生日	R8年3月7日（土曜日）
発生場所	透析病院
状況	C様は透析治療のため病院に行かれると、病院の看護師から施設に「シャントが閉塞しているが、昨日(6日)のシャントはどうだったか？」と確認の連絡が入った。
概要及び経過	3月6日C様はデイサービスご利用されていた。デイご利用者様で透析患者様は開始時と終了時にシャントの確認をすることになっていたが、開始時と終了時ともバイタルチェックした職員は確認せず、また他の職員も気づかなかった。その後病院職員からC様のシャントは使用できるようになって無事透析が行えたと施設に報告があった。
原因	・バイタルチェック時のシャント確認ができていなかった。 ・ダブルチェックができていなかった。
対応策	開始時と終了時、バイタルチェックする職員はシャント確認を忘れない。 バイタルチェック担当者だけに任せずにダブルチェックの徹底。

## 5)研修報告

### 外部研修

- 11月 介護職員が知っておきたいプライバシーと法令遵守
- 12月 高齢者虐待対応に関する実務研修
- R8年2月 職員を守るハラスメント研修

### 内部研修

- 2月 感染症研修及び訓練

## 6)季節の行事

- 10月 バーベキューパーティー
- 11月 コスモス見学(西都原)
- 12月 クリスマス会(きらり館)
- R8年2月 梅見学(住吉神社)  
節分(豆まき)



## 7)新人職員の紹介

- 12月末日より遠いミャンマーから2名の  
ホン・シン・ムアン(ムアンさん)  
マ・ウイン(ウインさん)

職員が入社しました。まだまだ日本語もわからない二人ですが、ご利用者様にはいつも優しく接して頂いております。今後も介護や日本語の勉強をしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

## 8)今後の予定

- 4月 桜見学
- 9月 運営推進会議

## 9)質疑応答



ホン・シン・ムアン

マ・ウイン